

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	有田町立有田小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 校長のリーダーシップのもと「有田大好き 進んで学ぶ さわやか有田っ子」を合い言葉に、職員が一丸となって学校目標の実現に向け取り組んできた。 個別最適な学びと協働的な学びが相乗効果を招くよう、校内研究をベースにした研修会で研鑽を深めた。児童用端末機器の文房化への足がかりとなる研修を行った。 PTAや地域との連携は、学校評価保護者アンケートにおいても肯定的な評価をしていただいた。 「子どもを知る会」を毎週水曜日に実施し、全職員で「気になる子」への支援を共通理解することができた。
2 学校教育目標	ふるさとを愛し、自ら学び、たくましく生きる児童の育成
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 校内研究における「自分の考えを広げ深める児童の育成」をベースに、個別最適化の指導スキルの向上を目指す。 特別支援教育を充実させ、気になる子への支援を全職員で共有し、共通実践を組織的・継続的に行う。 「つなぐ」をキーワードに、担任同士や地域や関係機関と連携した教育を推進し、児童が郷土を愛し誇りに思う心情を育て、活躍したり披露したりする場を設ける。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○下学年は学習への興味関心を高め、上学年は自己調整力を高めるために、児童が課題を見つけ、自分なりの考えをもち、友達と学び合いながら問題解決にあり、振り返りをして次に生かすという学習の過程を大切にすること	○「考えを交流するとき、お互いの考えが広がり深まったりすることができた。」と肯定的に回答する児童が90%以上 ○年度末に実施予定のCRTの算数科「思考力・判断力」において、全学年全	○同じ問題を再度解く環境を整える。 ○児童が自分の考えを算数的表現を使って説明したり、友達に質問したりできるように指導する。 ○全職員が所属グループ学年で授業研究会を行う。	A	・高学年で86.3%、低学年で100%の児童が進んで授業取り組んでいる。という意識を持っている。 ・全担任が公開授業実施に向けて年間当初の計画通りに実施している。研究会には原則全職員参加している。	A	・「課題解決のために自分から進んで考えて授業に取り組んでいる」と回答した児童は、90%を超えた。 ・12月末で全学年の授業研究会が終了した。CRTは、全国比100以上は達成できたが、基礎基本の定着はこれからの課題である。	A	・しっかりと取り組んでおられます。 ・全職員による授業公開(授業研究会が素晴らしい。 ・児童の学習への参加意欲が高い(高86.3%、低100%)のは、先生方の指導の賜だと思ふ。	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●「友達を大事にして、仲良く過ごすことができた」と考える児童の割合を90%以上	●「友達を大事にして、仲良く過ごすことができた」と考える児童の割合を90%以上	●ふれあい道徳などの公開授業やふれあい活動(縦割り班活動)の中で、思いやりの心や感謝の気持ちを育てる。	A	・「友達を大事にして、仲良く過ごすことができた」と考える児童の割合は、高学年で96.1%、低学年で100%である。	A	・「友達を大事にして、仲良く過ごすことができた」は、90%を超えた。学年を超えて仲良く活動したり、遊んだりする姿が見られた。友達への言葉遣いも改善されてきた。	A	・しっかりと取り組んでおられます。 ・友達を大事にして、仲良く過ごすことができた。高が96.1%低100%と非常に高く、心の教育活動の成果を感じる。 ・友達と仲良く過ごしていることは、子ども達にとって、とても幸せなことだと思います。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●人権・同和教育、道徳教育を充実し、「いじめ防止に努めた」と考える教職員を90%以上。	●Q-Uテストの結果をもとに、児童理解に努める。 ●個人面談を行い、一人一人の児童と担任等との対話を積極的に行う。	A	・講師を招いて全職員でQ-U研修会を夏季休業中に行い、児童理解に努めた。 ・いじめ防止に努めた教職員は85.8%。 ・個人面談で保護者との共通理解に努めた。	A	・「人権・同和教育を充実し、いじめ防止に努めた」は教職員で100%だった。 ・児童との個人面談は、児童一人一人の対話でき、信頼関係構築に効果的であった。	A	・具体的ないじめ事案とその対応にうちて、先日の会議でお伺いしましたが、その後の経過が気になります。	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	●Q-Uテストの結果をもとに児童理解に努め、小さなことでも褒めたり認めたりする。 ●総合的な学習の時間で職業を調べるなど、将来の夢や目標について考える時間をとる。	A	・毎週水曜日の「子どもを知る会」で、職員の共通理解を図り、児童理解や問題の早期発見、解決に努めている。 ・実施予定の教育講演会「ようこそ先輩」を通して、近い将来を描く場面を設けた。	A	・Q-Uテストの結果をもとに全職員で研修会を行い、今までの児童への指導の振り返りを行うとともに、これからの取組について話し合いを持った。 ・地域に出かけ、地域の人の交流を通して、仕事の大切さを感じる機会となった。	A	・いじめ理解について、具体的なアクションがあると良いと思います。
●健康・体づくり	○ふるさと有田に愛着をもち、有田のよさを感じる児童の育成と教育活動の推進	○地域との交流を通して、ふるさと有田のよさを感じる事ができる機会をどの学年でも設ける。	○陶器市遠足や地域学習等、有田町のことを深く知ることのできる機会を設ける。	A	・84.6%の保護者、85.7%の職員がその成果を感じている。	A	・77.2%の保護者、88.8%の職員がその成果を感じている。	A	・具体的には、どのような手立てを考えているか具体的に示してほしい。 ・ふるさと有田のよさについて、児童アンケートの結果を教えてください。 ・保護者への理解が浸透するように、学校全体として取り組んでほしい。	
	次の中から1つ以上を選択 ②「望ましい生活習慣の形成」	②自ら進んであいさつをする児童が90%以上。	○全校朝会等で全校児童への呼びかけをする。 ○教職員自ら来校者に挨拶をし、挨拶が広がる学校を目指す。	A	・生徒指導担当者により、全校朝会で、全校児童に呼びかける。 ・来校者への挨拶は、児童、職員友の活発になった。 ・6年生による朝の挨拶運動が行われ、それ	A	・昼休みや2時間目休みに外で元気に遊ぶ児童はどちらも78%以上であった。 ・体育科の授業を中心に運動への取組意識向上を行い、児童のボール運動や縄跳び運動への取組が増えてきている。	A	・地域でも特に高学年が非常に落ち着いた気持ちのよいあいさつをしてきている。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○「安全に関する資質・能力の育成」	○ゼロの日を水曜日に設定し、職員はもろんのこと、児童の交通事故もゼロにする。	○1学期に交通教室、学期始めに集団登校、毎月1回集団下校を行う。 ○登校班の確認、通学路の点検を防止ふれあい隊と連携し、見守り活動を推進する。	A	・交通教室や集団下校時に安全指導を行っている。児童の交通事故は0である。 ・通学路の危険箇所などを職員自ら地域に出向き、確認した。	B	日々の安全指導を行うとともに、危機管理に関する通知があった場合に、その都度児童へ指導、保護者への連絡を行った。今年度の交通事故は0であった。 ・ふれあい隊との連携を行い、ふれあい隊に危険な場所を含めた見守りをしてもらうことができた。	A	・これからも事故0を継続してほしい。	
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	●会議時間の縮減に努める。 ○システムで職員の時間外勤務を把握し、平日は、18時00分までに退勤するよう促す。 ○会議や配付資料のペーパーレス化をする。	A	・職員会議は、2ヶ月に1度計画されている。会議終了を16:20の目安はほぼ守れた。 ・職員の時間外勤務は月に約30時間弱で昨年より減っている。 ・保護者への配布物をペーパーレス化できてきている。	B	・会議の種類や回数は必要数に抑え、定時までで終わられる時間設定を行い、実施できた。 ・時間外勤務は月に約22時間で昨年より更に減っている。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上は、10/13が取得できた。	A	・先生方の働き方改革の成果が、子ども達の教育に反映されることを願っています。	
●特別支援教育の充実	○定時退勤日の設定	○定時退勤できたと思う職員を90%以上。	○定時退勤日(水曜)を設定し、定時に退勤するように呼びかける。	A	・各職員が、自分の業務に合わせて定時退勤を意識しており、水曜日の定時退勤日は特に心がけられている。	A	・定時退勤日できていると答えた職員は55.5%で昨年度より減少した。水曜日の定時退勤が定着してきた。	A	・先生方の健康管理のためにもよい取組だと思えます。	
	○全職員による共通理解と共通実践による組織的対応	○教職員及び児童への理解を深める研修会及び話す場を年1回は設定する。	○特別支援教育に関わる研修を年5回以上行い、専門的知識を深める。 ○毎週「子どもを知る会」を実施し、支援についての共通理解を図る。	A	・特別支援コーディネーターにより、全児童全職員に、発達障害児への理解と対応を深める話を設けた。 ・子どもを知る会の実施で共通理解ができた。	A	・児童への話を年度初めに行い、職員への研修は、長期休業中での講話や授業実践を通しての研修を行った。	A	・「発達障害」と言われている児童やその対応の現状を具体的に聞いてみたいと思いました。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域と連携した教育活動の推進	◎地域の人材や教育資源を活用した体験活動の充実	○「学校は保護者・地域と連携しながら教育を行っている」と考える保護者90%以上	○世界に誇れる有田焼をはじめ、地域の歴史・文化等、地域の人的・物的教育資源を活用した学習を年間を通して計画的に行う。	A	・やきもの教室、風鈴絵付け、音楽やクラブ活動の指導、大掃除の手伝い等、地域の人材を活かした活動ができている。	A	・学校は保護者・地域と連携しながら教育を行っていると感じた保護者は79%だった。やきもの、音楽、掃除、読み聞かせ、福祉など地域人材の力を活かした教育ができた。	A	・松尾会長の遺志を受け継ぎ、また有田小の個性を際立たせるために運営委員でも密に話をし、来年度以降地域として何ができるかを考えたいと思います。	
○落ち着いた生活態度の育成	○全児童が落ち着いて生活できる静かな環境づくり ○ノーマディアデーの周知、充実のため家庭と連携を図る。	○「静かな廊下歩行、無言掃除などができた」という児童が80%以上。 ○ノーマディアデーの実施率を90%以上。	○「有田っ子プライド」(月目標)を全職員で共通理解を図り、指導を徹底する。 ○ノーマディアデーの呼びかけを通信、花まる連絡帳等で行う。	A	・全校朝会、集団下校時に継続して安全指導を続けている。有田っ子プライドを全校で取り組んでいる。 ・ノーマディアデーの実施率を90%以上である。	A	・「無言掃除ができた」と答えた児童は低学年96%、高学年87.3%だった。今後は高学年の指導に力を入れていく。また、「気持ちの良いあいさつができた」と答えた児童は低学年94%、高学年97.8%であった。昨年度より、両項目とも向上した。	A	・ノーマディアデー実施率90%以上が素晴らしい。	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 校長のリーダーシップのもと「有田大好き 進んで学ぶ さわやか有田っ子」を合い言葉に、職員が一丸となって学校目標の実現に向け取り組んできた。 児童や保護者、職員の学校評価アンケートは、全体的に肯定的な評価であった。特に、保護者評価が前年度及び前期よりも向上した。 CRTの結果より、基礎基本の定着の必要性を見いだされたので、次年度での取組の共通理解を全職員で行った。
--------------------	--